



## 東地中海地域ニュース

### チュニジア：チュニジア中産階級の現状

(8月3日付「アッサバーハ」紙)

3日付現地週刊紙「アッサバーハ」(与党的新聞)は与党立憲民主党(RCD)「第18回夏の全国大会」で報告された「チュニジアの中産階級」について報じている。概要は以下の通り。

1. 中産階級の割合は1995年度に人口の70.6%、2000年度に77.6%だったが、2005年度の統計では81%に上昇した。全国調査で、中産階級は年間5,000DT(チュニジア・ディナール邦貨約71円)程度の消費をし、この額は5年毎の調査ごとに増大している。
2. 他方、貧困率は、1995年は6.2%、2000年4%、2005年3.8%と減少している。
3. チュニジア社会における中間層の増大の背景には、政府の独特の人口政策が挙げられる。人口増加や、子育て、高等教育政策に力を入れ、社会の高学歴化を推し進め、女性の権利義務を強化し、経済・社会的にも富めるチャンスを幅広く提供してきたことが挙げられる。
4. これらの施策は、社会福祉や社会生活を示す指標を年々改善し、中間層の拡大に繋がっている。又、チュニジア人一人当たりの年間所得は2000年に2,788DTであったが、2007年には4,389DTに増大している。2004年から2009年までの長期計画の中で、年間所得を5,000DT以上にする目標が定められ、同時に2007年から2016年までの成長率を10%台にすることで、所得の倍増を図り、2016年には一人当たり年間所得を8,000DT以上にすることを目標にしている。
5. 他方、中産階級が抱えている債務(借金)問題も存在し、チュニジア中央銀行によると、2003年の個人債務の総計30億DTが2008年には73億DTへ上昇し、特に個人的借金(失業、教育、家庭用品購入のため)が28%を占める。
6. 民間銀行での融資は、2009年5月745万DT、そのうち521マンDTが住宅融資、231万DTが個人消費(消費者金融)である。
7. 700人を対象にしたアンケート調査によれば、85.3%の人が借金経験あり、39.4%は銀行から3回以上借入を行っていた。又、債務者の67.7%が銀行から、残りは家族や友人から借金をしている。生活の為に借金を抱える者の割合は49.1%で、このような借金が返済不能にならないよう、又社会や経済に悪影響を及ぼさぬよう、監視の必要がある。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799